

闘いに彼支持も署名も生きたる

動労千葉 100%達成

日刊 動労千葉

85. 12. 24
No. 2125

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二二二七二〇七

五千万人署名千葉県推進委員会は十二月二十日、八十万名の署名を総評に提出した。この内十万六千あまりが動労千葉が集めた分である。われわれは「分割・民営化」十万人首切りに対する全国鉄労働者の怒りに立脚し、二四時間ストライキを闘いぬいた力で「五千万人署名」を集めきり、目標の一〇〇%以上を達成した。「闘えば署名が集まらない」のではなく、闘うからこそ署名も支持も獲得できることを身をもって示したのだ。

第一次統一行動の全てに 圧倒的に勝利した

われわれは、第十回定期大会において中曽根・国鉄当局の「分割・民営化」・十万人首切り・国鉄労働運動解体攻撃に對し、十一月末ストライキを軸とする第一次統一行動を展開し、反撃に撃つてでることを決定した。

そしてこの三カ月間、文字通り全組合員が火の玉と化し連日闘いぬき、第一次統一行動の全取り組みを勝利的に貫徹しぬいたのである。

各支部は、大会後、直ちに各支部定期大会を開催するとともに、十・二〇三里塚に四度の五割動員を実現し、各支部主催の地域集會も地区労の労働者をはじめ数多くの労働者・市民を結集し、それぞれ大成功をかちとってきた。さらに、十一・一七には、東京において三四〇〇名を結集し、全国鉄労働者集會を圧倒的に成功させた。そして何よりも、十一・二八ノ二九あらゆる反動をはねのけ、断固ストライキを貫徹したのである。こうした闘いのうえでわれわれは「五千万人署名」を断固貫徹したのである。

闘いに結びついてこそ 「署名」が生きたる

われわれが、ストライキ方針をだしたときに、一部の人々は「ストライキは五千万人署名を妨害するもの」「今闘うと署名が集まらない」と、まさに「スト迷

惑論」を展開した。しかし、ストを闘った当効の動労千葉は、一〇〇%以上貫徹しきったのである。何をか言わんやである。

そもそも「闘うと署名が集まらない」などは、本末転倒もはなはだしい。なんのために署名を集めているんだ。闘わなければ署名が集まり、署名が集まれば闘うとでも言うのか。それでは、全国で三〇〇〇万をこえる署名が集まった今こそ闘う時ではないか。

われわれは、十万人首切りのための選別攻撃が日々職場で強行されている現状、あと一年どころか、来年早々から国鉄追いつ出しがはじまろうとしている現実、怒り、これを許せないからこそ職場で闘い、地域に入り「五千万人署名」を訴えたのである。そして、ストライキを闘いぬいたことで世論を二分し、「分割・民営化」十万人首切り問題を焦点化したのである。

こうしたことと結びついてはじめて「五千万人署名」が生きているのである。逆ではない。

われわれは、自らが切り拓いた地平、自らの力に一層の確信を深め、あらゆる反動をはねのけ、さらに第二波・第三波にむかって断固進撃しよう。

県推進会議集約状況 1985.12.19

		目標数	獲得数	達成率
総合計		1,750,000名	828,353名	47.3%
各単産・地区内訳	動労千葉	105,100名	105,790名	100.6%
	国 労	480,000名	371,946名	77.4%
	その他の地区 単産合計	1,164,900名	350,617名	(平均) 30.1%